

中学校第3学年学級活動学習指導案

日時 平成25年9月18日(水)

指導者 教諭 橋爪 亮彦

1 題材名

「友だちの秘密」

2 題材について

(1) ねらいについて

現代の青少年については、人間関係の希薄さや他人に共感して思いやる心の弱さなどが指摘され、それがいじめや暴力行為などの問題行動や不登校などの一つの要因になっている。こうした背景から、人間関係を形成する力や自己表現力、他者への思いやりや正義感、連帯感や協力心を育むことが必要である。ここでは、学級を中心とした友だちという関係の中で、望ましく円滑な人間関係が確立できるようなソーシャルスキルのトレーニングを活動の中心としている。

人が秘密を話すのは相手を信頼しているからである。よって秘密を守ることはその信頼に応えることになる。思春期を迎え、単なる遊び仲間から、悩みを打ち明けたり、相談にのったりと、友だちの関係も深まってくる。ここでは、秘密を守らなかった場合の影響を考えることで、友だちとの関係を円滑に、友好的に継続していくためのスキルを身につけることをねらいとしている。(活動内容(2)ーオ 望ましい人間関係の確立)

一方、近年、情報通信技術は急速に普及し、インターネットや携帯電話などは中学生にとって、たいへん身近であり、とても関心の高いものとなっている。こうした情報機器によって、友だちの秘密や個人情報などを流布してしまうケースが増加しており、様々なトラブルに巻き込まれる生徒も少なくない。

こうした時代背景を考慮し、この活動を通して、他人の秘密や個人情報を公にしまうと、取り返しのつかない場合があるということに気付かせることもでき、情報モラルの育成を図ることもできる題材である。(活動内容(2)ーウ 社会の一員としての自覚と責任)

(2) 生徒の実態について

※ 省略

(3) 指導にあたって

- 友だちに悩みや秘密を打ち明けたという場面を想定し、友だちがその後とった行動によって、どのような気持ちになるかを考える活動を行う。
- 友だちがとるであろうと想定される行動を「もしもカード」として数種類準備しておき、自分の秘密についてそれぞれの行動をとられた場合の自分の気持ちを考える活動を行う。
- 最も許せない行動を理由とともに、発表する場を設定し、それぞれの感じ方を比較・交流させることにより、どのような行動が多くの人にとって嫌な行動なのかを感じ取ることができるようにしたい。

- あらかじめ提示された「もしもカード」以外に、「許せない」「傷つく」と思う行動がないか考えさせ、「情報機器によってネットワーク上にその秘密が公開されたら。」といった場面を想定させる。
- あらかじめ提示した「もしもカード」とネットワーク上での個人情報の公開の違いについて、デジタルコンテンツを見せ、問題点と改善点について考えさせ、意見を比較・交流させる。
- アンケート結果から、友だちとの親密な関係に対して消極的な考えを持っている生徒もおり、友だちの良さに気付かせるような説話を織り交ぜたい。
- みんなの前でコソコソ話をすると、周りの人はどう思うかについて触れ、時と場をわきまえた対応が必要であることを最後に付け加える。
- 知り得た秘密の内容によっては、本当に黙っておいてはいけない場合もあり、大人に相談を要する場合もあることを押さえる。
- 人権教育の視点から、これまでの自分の行動は、周りに不快な思いをさせたり、場合によってはネットいじめなどの人権侵害になっていたりしたことはなかったかを振り返らせる。また、今後そのようなことが起きないようにするためには、どのようなことに気を付けていくべきか考えさせる。

(4) 情報モラル教育の視点から

- ア 本時は、情報モラル指導カリキュラム表の「1. 情報社会の倫理」、項目「a 4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する」との関連を重視して展開する。
- イ 個人情報等をネットワーク上に掲載すると、たとえ削除したとしても、実質は回収が不可能であることを押さえる。

ICT活用のポイント

①教師の活用

- ・ あらかじめ提示した「もしもカード」とネットワーク上での個人情報の公開の違いについて、デジタルコンテンツを見せ、問題点と改善点について考えさせ、意見を比較・交流させる。（「個人情報とは公開しない」ネット社会の歩き方 <http://www.cec.or.jp/net-walk/>）

3 単元の目標

- (1) 望ましい人間関係を構築、維持していくためには、相手の心情を思いやる配慮が必要であることに気づくことができる。
- (2) ネットワーク上に個人情報等を掲載することは、個人情報を流布することになるという危険性に気づき、これからの自分の行動を考えることができる。

4 本時の展開

- (1) 目標 自他の個人情報を大切にすることの重要性に気づき、よりよい人間関係を築いていくためのスキルを身に付ける。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問 (T) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT 活用
導入 5分	<p>1 スキルの意義を説明する。 (T)「みんなは悩みや秘密を話すとき、どんな相手を選びますか。今日は友達の秘密と友情について考えてみましょう。」</p>	<p>感じ方には個人差があることを踏まえて生徒の反応に合わせる。</p>	
<p>めあて 友だちの秘密を知ってしまった後も、良い関係であるためには、どのような行動をとればいいのか？</p>			
展開 30分	<p>2 自分の秘密を話されてしまったときの気持ちを考える。 ① カード同士を線で結ぶ。 ② 一番許せないカードについて理由をつけて説明する。 ③ これ以外の許せない行動について考える。</p> <p>【言語活動】(設定の意図) 秘密にしておきたいことを口外された時の感じ方は人それぞれであることに気づき、これまで感じたり考えたりすることのできなかつた他の人の心を知り、周りへの配慮ができるようになる。</p> <p>3 ネット上に個人情報を公開した場合を考える。 「この場合の問題点は何でしょうか? こうした問題をなくすためには、何に気をつければよいでしょうか?」</p>	<p>能動型学習 (ポイント) 自分の秘密を知った友達がとった行動である5枚の「もしもカード」と、それぞれ自分の気持ちを想像して「その後の自分の人生」と線で結び理由を含めて意見を交流させる。</p> <p>◆ (ワークシート) B基準望ましい人間関係を維持するためには他人への配慮が必要であることに気付く。 A基準望ましい人間関係を維持するためには他人への配慮が必要であることに気づき、自分の行動に生かすことができる。</p> <p>徹底指導 (ポイント) ネット上に公開された情報は、完全には回収できないことがある。場合によっては、人権侵害から訴訟問題に発展したり、命を奪ったりする場合もあることを押さえる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>パソコン デジタル TV デジタル コンテンツ</p>
終末 15分	<p>4 友だちの情報を扱うときのマナーを確認する。 「これまでの行動を振り返って感想を書きましょう。そして、今日学んだことを今後生かしていく宣言を書いてください。」</p>	<p>○相手の心を思いやり、話をしたらどうなるか考えることが大切である。 ○ネット上への書き込みは要注意。 ○人前でのヒソヒソ話はマナー違反。 ○場合によっては黙ってはいけないこともある。</p>	<p>ワークシート</p>